

ライフサポートひなた（通所リハ）

症例概要 利用者：50代 女性 要介護5

疾患名：胸椎黄色靭帯・頸椎後縦靭帯骨化症未破裂椎骨動脈解離(2017竹川病院入院) 胸椎椎間板ヘルニア

経過：2016年6月、突然の後頭部痛、左顔面麻痺、左上下肢の筋力低下出現。椎骨動脈解離の診断で急性期病院にへ入院。同年11月に回復期リハ目的で竹川病院入院。2017年2月自宅退院し、ライフサポートひなた通所リハ利用開始。2021年11月までの4年間はADL全介助レベルで立ち上がり、歩行困難。

内 容

症例は、ADL全介助、移乗二人対応で4年間経過。車椅子乗車時は体幹保持が困難なため、側方に倒れないように体幹ベルトが常時必要であった。訪問介護による移乗時の転落事故が週1回ペースであり、それによる痛みが多々あるため、訪問介護職員へ移乗動作の介助指導等を訪問指導して行っていた。

2021年11月：移乗時の介助事故がほぼなくなり、体調も安定したため、立ち上がり練習が行えるようになった。両足に短下肢装具を着用し、平行棒を把持して立つのがやっとではあるものの、徐々に回復傾向がみられた。足を一步出しての歩行は困難。

2022年2月：5年ぶりに平行棒歩行が初めて一往復できたのち、ご本人から、『3月にライブハウスに行くことにした。会場に入るために手すりのない階段を3段昇れるようにしたい』と相談あり。会場を想定した階段昇降練習を開始。ご本人の友人のPT・OTが毎日6時間の自主トレに付き合ってくれており、身体能力が日に日に改善していた。

同年3月：ライブ当日、友人数名の介助により、ライブハウスの階段3段をクリアでき、「5年ぶりにライブを楽しめました。ありがとうございます。」とご本人よりお言葉をいただいた。そして、次なる目標として、『4月にもっと大変なライブハウスに行くことにした。手すりなし階段12段昇れるようにしたい』と相談あり。会場を想定した12段の階段練習を実施している。

本症例は、「また音楽ライブに行きたい」という強い思いと、PT・OTのご友人の力で、自主トレに1日6時間励むことができた。その結果、階段昇降や歩行ができるようになり、ライブハウスに行くことができ、イキイキとした表情がみられるようになった。杖歩行が5年ぶりにできるようになったことから、次の目標は「沖縄遠征したい」と意気込んでいる。